

「スポーツコミュニティ」

もし子どもたちが学校の授業や部活動の場で、もともとスポーツの楽しさや魅力を実感することができれば。
もし大人たちがスポーツを通じて、地域で生きる喜びを感じることができれば。
もしお年寄りたちがからだを動かし、仲間とふれ合う場を身近に持つことができれば……
例えばそうしたシーンが身の周りで何気なく見かけられるようなコミュニティを、
スポーツにかかわる人たちでつくり出すことはできないだろうか。そんな試みが昨年からは全国で始まっている。
もしかしたら、日本のこれからのスポーツ環境を方向づけるものになる可能性をほらみなから。

昨年6月に制定された「スポーツ基本法」の理念を最初に具体的に反映させた施策といえるのが、平成23年度「スポーツコミュニティ形成促進事業」(文部科学省)だった。この事業はスポーツ立国戦略に基づいて立案されたもので、昨年8月からおよそ億7千万円の予算で実施された。

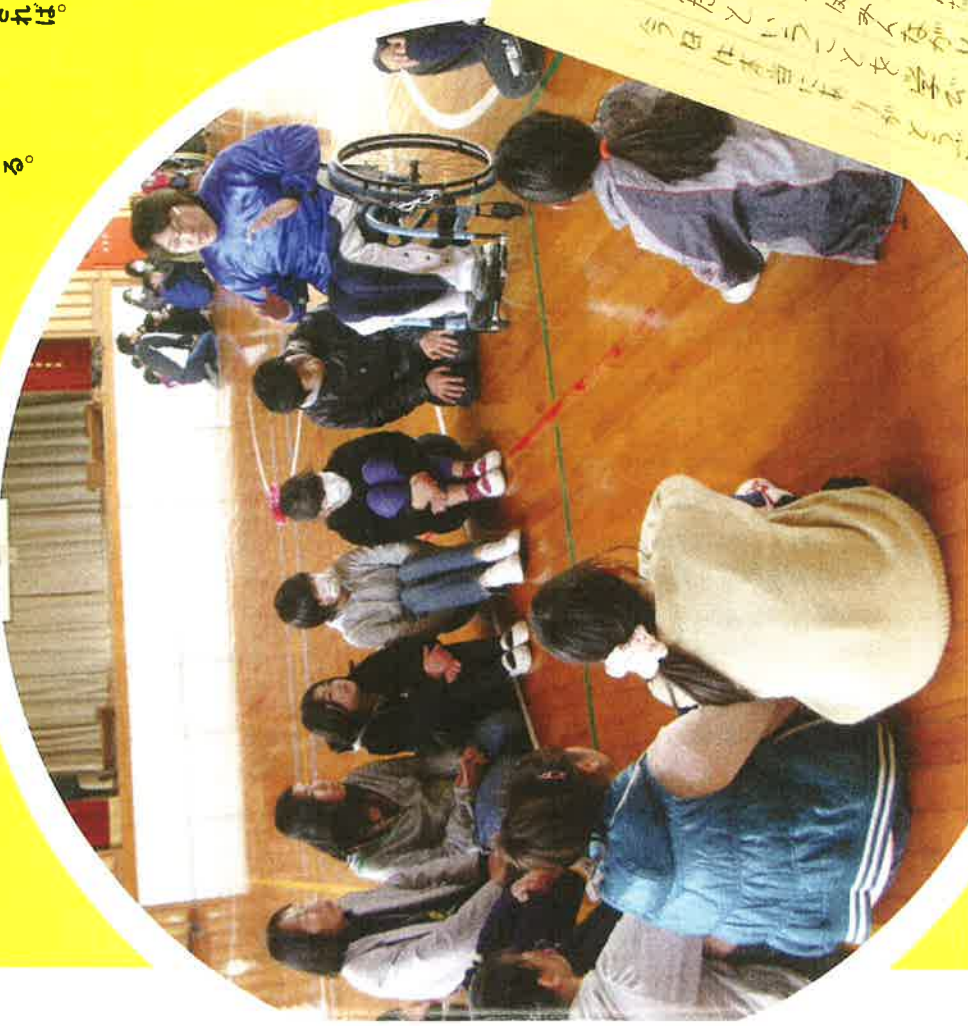
事業の柱は3つ。◎トップアスリートによる巡回指導。◎小学校の体育活動などを支援する小学校体育活動コーディネーターの配置。◎それらの連絡調整を含め地域課題解決(体力向上や子育て支援など)への取り組みを企画・実践するプロジェクトリーダーの配置。

平成23年度は、公募に名乗りを上げた団体か

ら30の「拠点クラブ」が誕生した。あくまで行政に依存するのではなく、学校の体育活動も含めた地域のスポーツ環境づくりに住民が運営するクラブが主体的に取り組み、人材の好循環も創出していくという目的で展開された。総合型地域スポーツクラブのさらなる自立を促すモデル事業である。

平成24年度は、同様の内容を、23年度より1千万円増えた5億8千万円の予算額で「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」として継続。33の「拠点クラブ」を含む46団体を選定している。

実際に何が行われ、どんな可能性や課題が見られるのか、長野と高知の2つの現場をのぞいてみた。



古田 さん
今日はあんなに楽しかった
講演としてくれてありがとう
今日の話をとても大切に思っ
た。自分だけじゃ考えずみんな
と一緒に自分自身も頑張ら
ないといけないことを学んだ
今日は本当にありがとうございました

地域にさらに浸透し始めた「クラブ」の存在感、

とまだスポーツクラブの場合（長野県上田市町長 7193-1 上田市真田体育館内）

体育館の半分を使って少年野球教室が、ネットを張って区切った残り半分では真田中学校の部活動でソフトテニスの練習が行われていた。朝8時から4時間、男女の部員たちは指導するコーチの言葉に熱心に耳を傾け、しっかりとメニューをこなしていた。教えるのは、上沢恵理さん。1999年の世界選手権個人優勝の実績を持つアスリートで、上田市在住。

いまやっていることをそのままできる

飯塚義隆理事長兼クラブマネジャーに聞いてみると、もともとクラブとして同じような活動をしていたので、トップアスリートの巡回指導事業の話を聞いたときにそれならうちでもやれるーと、申請まで2週間しかなかったものの細かな計画を立てて応募したそう。

「このクラブは平成17年の設立ですが、18年には文部科学省の「トップアスリートふれあい事業」に手を挙げてたまたま選んでもらい、プロテニスプレイヤーの長塚京子さんが来てくれました。やはり子どもたちにとって、スポーツへの関心が高まりますし、教える指導者のモ

チベーションも上がるだけでなくスキルアップにつながりました。トップアスリートに直接指導してもらうことの意義は想像以上です」

それだけではなく、地元のスーツ店を通じてあるメーカーからプロサッカーの遠藤彰弘さんの紹介を受け、クラブで大会を開くときに来てもらうなど若干ながらトップアスリートとのパイプもできていた。「いま行っていることをそのまま活用できると思いました。クラブでは当時から市の子ども向け教室を受託していて、スポーツへの導入段階を受け持っていた。それを、少し上の段階へ進めるような、トップレベルの大会に出るような将来はプロにといった夢を追いかける教室をテニス、サッカー、野球と3つ作り、この3つについてはなんとかトップアスリートを呼ぼうと工夫を重ねてきていた。

子どもたちと過ごす幸せな時間

「社会体育の指導者が教育現場に入れるなんて、教員になるのが夢だった私にとって本当に幸せでした」と語るのは、クラブのアシスタントマネジャーで、日体

協のスポーツリーダーや中高保健体育教員資格を持つ宮本恵美さん。今年度の事業ではプロジェクトリーダーも務める。「やっぱり子どもたちも楽しくなったようです。ボク全然できなかったけど体育できるようになったよ、ついでにつけてくれます」。飯塚理事長も「一番重要なことは、学校とクラブが一緒に授業を行うなかで、お互いの信頼関係や協力体制が構築できる点」と言う。総合型地域スポーツクラブは地域密着型なので、学校はかぎを握る場所であり、コーディネーターの善し悪しがとまだスポーツクラブへの評判につながる。

「一緒に地域を盛り上げていきましょう。地域の力でこんなこともできるんですよ」ということを、まだまだ総合型クラブのことをご存じない方々に伝えるチャンスだと私は思っています」と宮本さんはとても積極的。最近では出前講座の形でスポーツ同様に文化講座も実施していて、お年寄りのファンもできている様子だ。

「全日本の大会を目指す子が一人でも多く出てきてほしい」

サッカーの遠藤さんと同じように、メ

上沢恵理さんが指導する真田中学校のソフトテニス部活動（真田体育館内）

